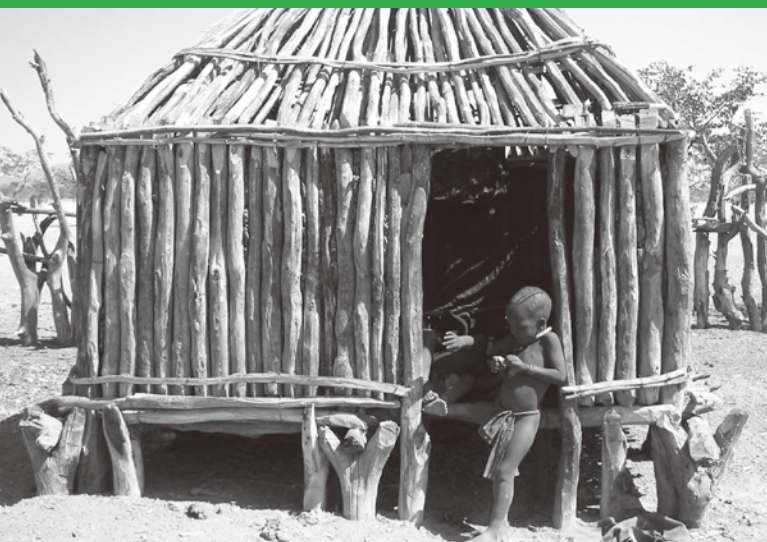


# Think the Earth Paper

Vol.2 Spring-Summer / 2008

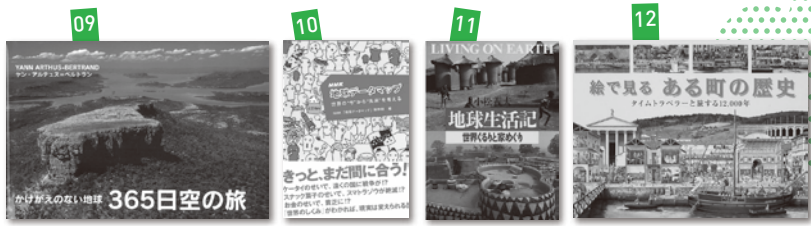
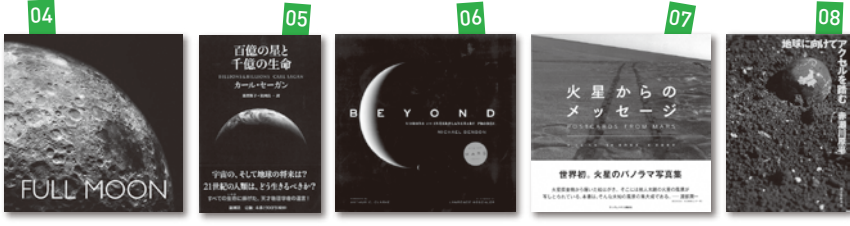
→ Think the Earthする50冊



右上) タンザニア、タンガニーカ湖で船を造る人々。右下) 風の谷と呼ばれるパキスタン、ファンザの河を渡るジープ。左上) アフリカで最も美しいと称されるヒンバ族。左下) アルファベット発祥の地とも言われるレバノンのピプロス遺跡。写真/佐々木拓史

好奇心のアンテナを世界に向けて、  
想像力はどこまでも。

# 宇宙・天体



# 地理・旅



# 社会・文化

# Think the Earthする50冊

地球ってどんな星？  
知らないこと、知りたいこと、いろいろあるから面白い。  
地球の魅力を再発見し、  
世界をぐんと広げてくれるおすすめ本、50冊をご紹介します。

- |  |   |  |   |   |  |
|--|---|--|---|---|--|
| <p><b>01</b><br/><b>137億光年のヒトミ</b><br/>地球外知的生命の謎を追う<br/>137億光年先まで見られる望遠鏡で地球外知的生命体を探る。兵器集結ははるばる天文台の研究者の奮闘記。地球外生命がテーマだけれど、地球の人類の歴史が伝わり、宇宙観の発展の瞬間に思わす深まっています。この望遠鏡、一般に公開されているものとしては世界最大なんだそうです。 高沢真也著／草央社</p> | <p><b>05</b><br/><b>百億の星と千億の生命</b><br/>天才物理学者であり、天文学者であり、あまりにも有名な宇宙に関するドキュメンタリー番組、「コスモス」で広く知られるカール・セーガンが、病と闘いながら書いた最後の書。地球温暖化という「待ち伏せ」と、その待ち伏せから逃れるための提言などが力強く綴られている。カール・セーガン著／新潮社</p>  | <p><b>09</b><br/><b>365日空の旅</b><br/>かけがえない地球<br/>10年間にわたり、空から地球を撮り続けたプロジェクトの集大成。1日1枚、合計365枚の空撮写真が、ページをめくるたびに目に飛び込んできます。左頁のテキストがたのしみ、持続可能な地球を築くための活動も始めた著者のメッセージが伝わります。ヤン・アルテュス・ベルトラン著／ピエ・ブックス</p>                | <p><b>13</b><br/><b>集落の教え100</b><br/>建築家である著者が20数年に渡る集落調査を通して抽出した100の哲学的なフレーズ。人間、集落、自然というフィールドを通して、「ものごとの関係性」を考へるヒントがたのしみになっています。キーフレーズに対応して掲載された世界中の集落の写真も興味深々、視野を広げてくれます。原田可香／彰国社</p>                       | <p><b>17</b><br/><b>ちずのえほん</b><br/>子どもの心で地球を描いてみよう。おたからのちず、こどもペペのちず、かそくのちず、いちにもちず。あなかのちず、さくらのちず、こまのちず。こころのちず。いのちのちず。どうなるちず。わたしのちず。うみのちず。表紙カバーに贈られた「わたしだけのちず」もお見逃しなく。サラ・ファネリ著／フレーベル館</p>                       | <p><b>21</b><br/><b>世界を変える人たち</b><br/>社会起業家たちの勇気とアイデアの力<br/>世界というより、「世の中」を変えようとする社会起業家たちの列伝。彼らの熱意と努力なや、「社会」を創ることがビジネスにつながるわけではない。変革のHow to Change the Worldに、真やかな希望を感じます。デービッド・ボーン・ステイン著／ダイヤモンド社</p> |
| <p><b>02</b><br/><b>あさ／朝</b><br/>詩人の谷川俊太郎と、カナダをフィールドとしてみる風景写真家、吉村和敏さんの二人の作品が織り込まれた写真集。左から読む写真集本。右から読むと詩集。谷川さんが「朝」をつづいた詩がこれほどあったとは、「朝のリリース」だけではないんです。谷川俊太郎著、吉村和敏写真／アリス館</p>                                 | <p><b>06</b><br/><b>ビヨンド</b><br/>VISIONS OF THE INTERPLANETARY PROBES<br/>この写真集に納められた295点の写真は、地球上から撮られたものではなく、探査機によって、それぞれの天体に近づいて撮影された写真ばかり。ひとつとして同じような写真はなく、太陽系外に近づいたさまざまな表情をもっていることがわかります。著者は海王星と衛星トリトン。マイケル・ペンソン著／新潮社</p> | <p><b>10</b><br/><b>NHK 地球データマップ</b><br/>世界の「今」から「未来」を考える<br/>「わたしのデータは遠くの世界の戦争とつながっている?」。そんな見出しを見て読まざるにはいられなくなり、驚いてく次から次へと驚きのデータや世界のしくみの謎に読み込まれる。世界と自分のつながりが読み込まれる。楽しく、恐ろしい本。NHK「地球データマップ」制作班編／日本放送出版協会</p>     | <p><b>14</b><br/><b>地球の食卓</b><br/>世界24か国の家族のごはん<br/>世界24か国、30家族の1週間分の食事を写真で次公開。サハラ砂漠の貧乏だけじゃなく、自然と暮らした農家生活からアメリカのパッケージだらけの食生活まで、食から見えるストーリーをリアルに伝えていく。日本という「食文化」の食文化はたまたまピーター・ゲルツェル、フェイス・ダール・ジョーンズ著／TOTO出版</p> | <p><b>18</b><br/><b>ボランテア未来論</b><br/>私が気づけば社会が変わる<br/>国際協力の現場を経験し、NGOや市民活動に関わる著者が、ボランティアとは何かを考えた本。良質な社会のあり方も、「海外ボランティア」として関わっては、私の問題とそれに関連する私たちの社会の問題に気づくためのプロセスにすぎなかった」という言葉が心に響きます。中田一重著／参加型開発研究所</p>       | <p><b>22</b><br/><b>キリンヤガ</b><br/>都市化の波にさらされたアフリカの少数民族が、実業を求めて小惑星へと旅立つ物語。舞台は未来の地球。求めたエコトピアが古代の文明社会。科学的な世界を再構築するといふ小説の読みは想像力だけれど、私たちが考えるべきことのヒントがたくさく取りだめられています。マイク・レスニック著／早川書房</p>                   |
| <p><b>03</b><br/><b>天と地 HEAVEN&amp;EARTH</b><br/>肉眼で見えないもの<br/>ミクロからマクロ、原子から銀河まで、普段私たちが見ることができない「ビッグ・ワールド」を、最新の科学で、今見ることができるようになりました。『もうひとつの世界』を体験できます。各写真の解説文もじっくり読んで、巻末の用語集も便利です。アマダ・レンジャー編／ファイン</p>     | <p><b>07</b><br/><b>火星からのメッセージ</b><br/>いまも火星の上には、スピリットとオポチュニティという2台の探査車が走り回っています。それぞれの天体に近づいて撮影された写真ばかり。ひとつとして同じような写真はなく、太陽系外に近づいたさまざまな表情をもっていることがわかります。著者は海王星と衛星トリトン。マイケル・ペンソン著／新潮社</p>                                      | <p><b>11</b><br/><b>地球生活記</b><br/>世界ぐるりと家めぐり<br/>地球上にはいろいろな場所があって、それぞれ気候や風土、歴史や伝統に個性があります。暮らしがある。言葉にするとこんなにも面白い世界があるけれど、1700枚を超える写真集は1枚一枚ともって見ても平気なくらいのものなんてなく、人の喜びのたぐいまで伝えてくれます。小松義夫著／福音館書店</p>                 | <p><b>15</b><br/><b>長い旅の途上</b><br/>星野道夫が撮った76冊のエッセイ。著者が残した数ある写真集のエッセイ集だけれども、人や自然、動物との関わりが溢れ、本を道ってそのまなざしに惹かれることに感動の気持ちでいっぱいになる。地球の上で限られた命を生きて生まれる。さく自然にそんな気持ちになる。星野道夫著／文藝春秋</p>                                | <p><b>19</b><br/><b>地球の上で生きる</b><br/>衣食住、自分の生活を自分で獲得していく知恵がぎゅっと詰まった実務的HOW TO本。30年近く前に書かれた本。ビジネスを通して地球を守るという哲学を貫いていた岡田が、これからのビジネスに必要不可欠なエコロジーとエコノミーを共有する企業経営者があふれる。何よりも仕事にサーフィンができるなんて! イヴン・シュガード著／東洋経済新報社</p> | <p><b>23</b><br/><b>屋上とのんがり帽子</b><br/>「たくさんのふしぎ」210号<br/>ニューヨークにある「熱帯地」を写真と絵で楽しむわがやのふしぎ。ニューヨークの熱帯地をめぐってのふしぎ。世界中のいたるところにあって、日常の風景にだけくまなく「のんがり帽子」は、遠く離れた異国の地と自分とどこかつながっているように感じられます。折原重典／福音館書店</p>     |
| <p><b>04</b><br/><b>フルムーン</b><br/>人類初の月面旅行を記録したNASA初編の写真集を再発見。アポロ計画から四半世紀。世紀の夜(1969)に飛行された20世紀の遺産のような写真集です。月を見ることは地球を見ること。写真を見ただけで夜空の月を見上げると、一層深い感動がこみ上げてきます。マイケル・ライト著／新潮社</p>                             | <p><b>08</b><br/><b>地球に向けて</b><br/>アクセルを踏み込む<br/>雑誌「天文ガイド」で連載されていたエッセイをまとめた本。「人間の歴史に続く二冊目。赤瀬川原平さんには「読むべき」本です。これは本編です。誰でも星に興味があるんです。月をみることは地球を見ること。写真を見ただけで夜空の月を見上げると、一層深い感動がこみ上げてきます。マイケル・ライト著／新潮社</p>                        | <p><b>12</b><br/><b>絵で見るある町の歴史</b><br/>タイムトラベラーと旅する12,000年<br/>石器時代から現代まで、なんと1万年以上前の生活スタイルの川の流れの「ある町」の歴史。住居の生活様式や、変化していく町の歴史のパラメータがひっきりなしに描き込まれています。ページをめくる楽しさに遊ばせてくれる本。時間旅行が楽しめます。アン・スラット著、スティーブ・スーン編／さくら書房</p> | <p><b>16</b><br/><b>NEW WAVES</b><br/>言葉は無く、ただわたしたちがハワイ・ノースショアの波・波・波! 静かに波は静かにめくられている。しかし波が寄せては退きリズムと同様に、そこに風が舞い、波音が聞こえてくるような気持ちでから不思議。サーフィン好きな、じっとしてられないことと関連しなす。ホンマタカシ著／リロコ</p>                             | <p><b>24</b><br/><b>エコトバ</b><br/>ecotoba<br/>日本人が忘れてしまった大切なものを、もう一度思い出したいという願いが込められた一冊。「ゆたかな」いただきます。「空気」「水」「土」など、馴染みのある44の言葉に目一杯のエコが隠れています。美しい風景の写真にも心を奪われます。電通ECOプロジェクト編、中乃波水写真/小学館</p>                      |  |



Think the Earth プロジェクトは「エコロジーとエコノミーの共存」をテーマに2001年に発足したNPO（非営利団体）です。ビジネスを通じて社会に貢献するしくみを提供し、日常生活のなかで地球や世界との関わりについて考え、行動する、きっかけづくりを行っています。

環境や社会問題への無関心とあきらめの心こそ最大の課題ととらえ、ウェブサイトや書籍などで情報発信を行っているほか、企業やNPO、クリエイターとともに誰もが参加できるプロジェクトを開発・提供しています。

**My Think The Earth : agroforestry**

原田麻里子 (Think the Earth プロジェクト コーディネーター)

**日系人移民と持続可能な農業**

今年日本は、ブラジル移民100周年を迎えます。Think Daily「地球レポート」の取材を機に中南米の国々を訪ね、アマゾンにも日系人がたくさん住んでいることを実感しました。なかでもアマゾン下流域の町トメアスは、農協組合員の9割以上が日系人。休憩で立ち寄った食堂のお客さんが日本語で話しかけてくる、なんてこともありました。

そんなトメアスの日系人が30数年前から取り組んできたある農法が、いま注目を浴びています。名前は「アグロフォレストリー」。自然の森の形態をまねて、さまざまな種類の作物や樹木を混栽し、作物同士がお互いに補い合って育つようにする農林業のやり方で、森林農業ともいいます。もともと、単一栽培で収量が落ちたビメンタ（胡椒）やパッション、メロン等の代わりにカカオやコーヒーを栽培したとき、陰木として経済的に価値のある樹木や果樹などを植えたのがきっかけが始まったとのこと。今では、南米各国から視察が訪れるようになりました。

アグロフォレストリーは、森を守りながらそこに住

む人々が経済的に自立するための持続可能な農法として、主に熱帯地域で取り組みが進んでいます。そのブラジルモデルを先導しているのが、トメアスの日系人の皆さんなのです。「収量は単一栽培に比べ少ないけれど、長い目で見れば土が健康でいられて焼き畑しなくても済むから良い」のだと、トメアス農協組合長が流暢な日本語で話してくれました。

■アマゾンについての詳しいレポートを、Think Daily「地球レポート」に掲載しています。  
[www.ThinktheEarth.net/jp/thinkdaily/report/](http://www.ThinktheEarth.net/jp/thinkdaily/report/)  
**【検索】Think the Earth 地球レポート**



アグロフォレストリー農法は、トメアスに導入された。トメアスの日系人移民が、単一栽培で収量が落ちた作物の代わりにカカオやコーヒーを栽培したとき、陰木として経済的に価値のある樹木や果樹などを植えたのがきっかけで始まった。

**My Think The Earth : water**

上田社一 (Think the Earth プロジェクト プロデューサー)

**水に流せない話**

朝起きて顔を洗い、歯を磨くことから始まり、炊事、洗濯、トイレ、お風呂…と、私たちは一日中、水と関わりながら暮らしている。「湯水のように使う」とか「水に流す」なんて言葉もあるくらいで、日本に暮らしていると水はあまりにもありふれた存在なので、その大切さを感じる感性はどんどん鈍ってしまっているかもしれない。

しかし、実は水は決してありふれた存在ではなく、とんでもなく面白い物質なのだ。氷が氷に浮くのも、地球上に水が存在するのも、100℃という高い温度まで液体の状態でいられるのも、植物が根から葉まで水を吸い上げることができるのも、全て水が他の物質にはないユニークな性質を持っているからだ。また、地球がいまよりちょっと太陽に近ければ海は干上がってしまい、ちょっとでも遠ければ凍りついてしまう。宇宙の中の地球の居場所も生命にとって絶妙な位置にある。そのおかげで地球が誕生して46億年の間、絶えず地球上で水が循環し、生命進化の舞台となってきた。私たち人間も、その進化の過程で生まれてきたわ

けて、極論すれば「水から生まれてきた」と言ってもいいかもしれない。

その、まさに自分たち自身でもある水に対して、人間は汚染やら無駄使いなどによってさまざまな問題を引き起こしている。温暖化による気候変動が各地に水災害をもたらすなど、人類は今後ますます水問題と向き合わなければならない。水問題は、生死を左右する大問題。決して水に流せる話ではない。

**みずものがたり**  
みずものがたり 水をめぐる7の話  
水の大切さについて、大人から子どもまで楽しめるビジュアルブック。好評発売中です。  
企画監修：山本良一（東京大学教授）  
編著：Think the Earth プロジェクト  
寄稿：今泉浩彦、沖大幹、田川洋一、ジェーン・グドール、しりあがり寿ほか  
発行：ダイヤモンド社

**My Think The Earth : CSR**

猪飼麻由美 (Think the Earth プロジェクト推進スタッフ 上海在住)

**中国でのCSR事情**

日本では04年が「CSR（企業の社会的責任）元年」と言われたが、ここ中国ではまさに今、CSRへの注目が高まっている時期と言えるだろう。今年3月、上海で2日間に渡り開催された「CSR China 2008」では、GEやシーメンスなどのグローバル企業や中国民間組織が参加し、中国におけるCSRについて多面からの経験紹介、提言などがなされた。中国におけるCSRは、06年辺りから民間組織による活動も目立ち始めてきたが、中国に進出してきた欧米・日系企業など既にCSR経験を持つ企業の牽引、そしてオリンピックを目前に控えていることもあり、政府や各種メディアによる後押しで、その言葉も社会に認識されるようになってきている。

中国では例えば学校建設のための寄付金は政府系組織を通さなければならないなどの法的制約も多く、本を寄付する場合も、政府指定もしくは検閲を受ける、という中国ならではの特殊事情もある。

多くの日系企業もCSRを視野に入れつつも、市場の異なる中国では苦戦している場合がほとんどで、資

金・マンパワー・情報不足から、寄付・寄贈などできる範囲で、という程度に留まっているのが実情だ。一方、欧米系企業は全面的にCSR活動を打ち出し、中国社会における自社の存在価値を高める努力を怠らない。世界各国企業がこれだけ集まると、やはりその特徴、傾向は顕著に表れてくるよう。上海に住み、仕事を始めてもうすぐ3年。今後もしばらくは発展の一途を辿るであろうこの国の、CSRの動向に注目していきたい。

■Think the Earth プロジェクトのスタッフが日々思うこと、お知らせなどをブログでお届けしています。  
[www.ThinktheEarth.net/jp/staffBlog](http://www.ThinktheEarth.net/jp/staffBlog)  
**【検索】Think the Earth スタッフブログ**



上海で開催されたCSR China 2008。

**Information**

米袋にビニールのテープを貼り重ねた「雷 xThink the Earth」の雷バッグ。

長野県にある福祉施設「OIDEYOハウス」とのコラボレーションで生まれた「雷 xThink the Earth」の雷バッグ。使用済みの米袋にビニールのテープを1枚1枚手作業で貼り重ねてつくられています。すべて手作りの1点もの。ひとつとして同じ柄はありません。作り手たちが、いまの地球、いまの世界を感じとり描いた、のびやかな色の重なりをお楽しみください。  
[www.ThinktheEarth.net/jp/kaminari](http://www.ThinktheEarth.net/jp/kaminari)  
**【検索】Think the Earth 雷バッグ**



毎日更新される、地球についての情報発信コンテンツ「Think Daily」。

世界各地のリポーターから届く「地球ニュース」では、たとえば、沖縄県那覇市の壁面緑化事業を伝える「コーヤーで温暖化対策!」、アムスターのエネルギー会社とアメリカのインフラ整備会社が発表したネットワークプラン「余った風力で電気自動車」といった話題を紹介。災害・紛争地の緊急支援情報、NPO/NGOのイベント告知もあります。日々更新される地球の話題に目を通してみてください。  
[www.ThinktheEarth.net/jp/thinkdaily](http://www.ThinktheEarth.net/jp/thinkdaily)  
**【検索】Think the Earth 地球ニュース**

リアルタイムの地球が見られる携帯アプリ「live earth」。

宇宙からみたリアルタイムの地球を見ることが出来る携帯電話のアプリケーション。静止気象衛星のデータから再現された地球の雲画像を1日4回更新できます。情報料（105円/月）の一部は自然災害の被災地支援に活用されています。※2008年4月現在、「au」のみご利用いただけます。  
[www.ThinktheEarth.net/jp/liveearth](http://www.ThinktheEarth.net/jp/liveearth)  
**【検索】Think the Earth ライブアース**



プロジェクトの活動をサポートする個人会員アスコミュニケーション募集中。

ひとりでも多くの人が地球との関わりについて感じ、考え、行動することで世界は変わる。この想いに共感し、プロジェクトの活動をサポートして下さる個人会員を募集しています。勉強会・交流会のご案内などもさせていただきます。下記ホームページをご参照のうえ、ぜひご参加ください！  
[www.thinktheearth.net/jp/about/communicator.html](http://www.thinktheearth.net/jp/about/communicator.html)

